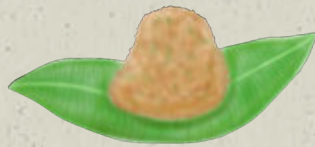


東村ストーリーブック

今日もアガリティーダ日和

～あたりまえが宝物～



Ver. 1.0

やんばる国立公園インタープリテーション全体計画【東村編】

目次

はじめに	P01
このストーリーブックについて	P02
東村のストーリー	P05
東村でこんなことを体験してほしい！	P15
東村インタープリテーションのキーワード集	P16
あとがき	P25

はじめに

移住してきた人に伝えたい

これからの東村の歴史を、ともに紡いでいく仲間として

移住を考えている人に伝えたい

東村の魅力を知ってもらい、未来を一緒につくる仲間になってもらうために

観光客の皆さんに伝えたい

私たちが大切にしていること、守り続けたいものを

沖縄のほかの地域の人たちに伝えたい

ともに「わった一島」を盛り上げていく仲間として

日本中の人たちに伝えたい

同じ日本でも、まったく違う歴史・文化・自然があることを

世界中の人たちに伝えたい

世界自然遺産を擁する村としての、東村の誇りを



このストーリーブックについて

このストーリーブックは、東村の魅力や価値を整理し、地域を来訪する方と共有することを目的として作りました。

来訪者を受け入れ、地域の価値を伝えていく側の方々（行政やビジターセンター、エコツアーガイド、宿泊施設や飲食店・土産物店などの観光事業者、地域住民の皆さん）に向けて、ツアープログラムや配布物の作成、商品開発等を行う際に、地域の自然や歴史文化などの伝え方のベースとして活用していただくことを想定しています。また、観光関連の人材育成や若い世代、移住を希望する人などに向けて、地域を理解し学ぶ教材としても活用できます。

地域を訪れる方にとっては、この地域ならではの魅力や価値をより深く知り、味わうためのきっかけとして使っていただければと思います。

自然環境を含めた地域の状況も来訪者層も年々変化しますので、このストーリーブックに完成版はありません。地域の皆様が主体となって、情報を更新・改訂し、進化させていくことを計画しています。



このストーリーブックについて

ストーリーブックの作り方

POINT
01



地域の皆さんと つくる

地域の皆さんが集まって3回のワークショップを開催し、地域の魅力や価値について多様な視点での意見を出し合いました。

POINT
02



ストーリーを つくる

ワークショップの話から浮かび上がったストーリーを抽出し、主題となる文とその解説文を、過度に専門的にならないよう平易な言葉で整理しました。

POINT
03



ストーリーブックを つくる

ワークショップ参加者の中から、有志の皆さんの協力をいただき、「東村地域チーム」としてストーリーの練り直しを行い、ストーリーブックの構成や内容を考えました。

このストーリーブックについて

「インタープリテーション」と 「インタープリテーション全体計画」

本書は、「やんばる国立公園インタープリテーション全体計画」の一部として作成しました。

インタープリテーションとは、自然・歴史・文化・暮らしなど、その地域が本来もつ`意味、や`価値、を来訪者と共有し、理解を深めるためのコミュニケーション手法です。

インタープリテーションは地域が持つストーリーを浮かび上がらせ、来訪者自身の価値観や経験と結びつけながら、体験を通して驚きや共感、気づきを与えます。これは、地域の魅力をより深く伝えるための`体験のデザイン、`です。

そして、地域を伝える様々な媒体（ガイドプログラム、案内板や配布物、インターネット上の情報やお土産物など）を作る際に、伝えるべきテーマやストーリーを整理し、包括的にまとめた`伝え方の設計図、`がインタープリテーション全体計画です。

このストーリーブックのほかに、やんばる全体編、国頭村編、大宜味村編のストーリーブックも作成しています。

ぜひ合わせてご活用ください。



各編の最新版は
コチラよりダウンロードできます。



やんばる
全体編

人と自然がつなぐやんばる未来日記

やんばる3村に共通する自然と文化の価値・魅力を集めたストーリーブックです。



国頭村
編

見上げれば神宿る山
麓に息づく辺戸の暮らし

辺戸周辺エリアの魅力、特に琉球創世神話につながる祈りの文化と歴史を深掘りできるストーリーブックです。



大宜味村
編

おばーとおじーのしま語り

大兼久集落の魅力、特に人のつながりの生き生きとした豊かさを味わうことができるストーリーブックです。



東村
編

今日もアガリティエダ日和
～あたりまえが宝物～

東村の魅力、特に人の暮らし、産業の歴史が自然とともにあることを感じられるストーリーブックです。

ストーリー01

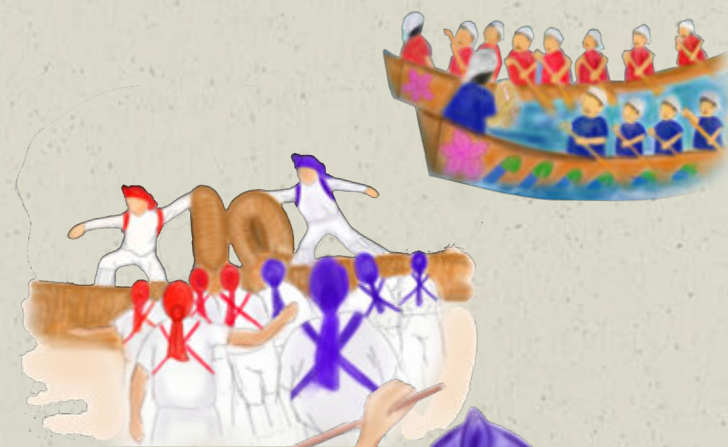
^{あざ}
6字から成る東村。

多様な文化と伝統を守り
次の世代へつないでいる。



東村

沖縄本島



^{あるめ} ^{げさし} ^{たいら} ^{かわた} ^{みやぎ} ^{たかえ} ^{あざ}
有銘、慶佐次、平良、川田、宮城、高江、6つの字にそれぞれの歴史がある。

^{あざ}
6字ごとに豊年祭や海神祭など昔ながらの祭事があり、

さらに新しい祭りへの取り組みなども盛んである。

そして、行事に欠かせないのが手作りのジューシー。

字ごとにレシピが異なるのがこだわり。

材料や具の大きさが違ったり、小字でさらに特徴があったり、

シンメナービを使い薪で炊いたりと、

自分の字のジューシーが一番だという気持ちは誰もが譲れない。



ジューシー

沖縄の炊き込みご飯。東村では各地区のレシピがあり、法事や行事で炊き出される。



6字の行事と6つのジューシー



01

平良区

主な行事

2025年に「てえ〜ら祭り(平良祭り)」が半世紀ぶりに復活し、今後も不定期に開催予定。

ジューシー

具材はツナ・ポーク・三枚肉・ニラ・ニンジンなど。細かく切った3枚肉と一斤袋に入ったソフトボールほどの大きさが特徴。法事などで供される。



02

高江区

主な行事

高江売店の盛り上げと区民の交流のための高江売店祭。高江住民による歌三線なども行われる。豊年祭では高江青年によるオリジナル劇が評判。

ジューシー

具材は昆布にんじんポーク、ツナ。長年受け継がれる絶妙な味付けが区民に好評。「大きな鍋窯でたくさん作るから美味しいのかねー」と区長談。働いた充実感でおいしさが増す。

03

宮城区

主な行事

ハツクシー、アブシバレー、学事奨励会、宮城エイサー、豊年祭、十五夜ワカリアシビー、夕涼会(宮城祭)、ウマンチュスルティー(区民交流)

ジューシー

具材は三枚肉・ポーク・ツナ・ニンジン・刻み昆布・ネギ。材料それぞれの味が絶妙に合わさる、あっさり目だけど癖になる一品!

06

有銘区

主な行事

豊年祭の時の村芝居である「奇縁の巻」「女手踊り」は有銘にしかなく、区民が誇りとする演目。三年に一度の大綱引き。ハチウクシー、アブシバレー、清明祭

ジューシー

具材はツナ・ポーク・三枚肉・切り昆布・にんじん・たくあん・みそ少々。シンメナービで薪で炊き上げ折り箱にバナナの葉を敷き入れ、煙の香りとバナナの葉の風味が豊か。4つ小字ごとも含め、全部で5つの味がある。

05

慶佐次区

主な行事

豊年祭、アブシバレー、学事奨励会、初日の出拝み

ジューシー

具材は昆布、ひじき、ポーク、三枚肉、シーチキン。多めのだしの素にハイミーを少々。告別式の際に出すもので、寂しい気分になるので最近は買ってくるようになった。



04

川田区

主な行事

除夜の鐘、生年祝い、タマガハラ(旧正月)、東村で1番早い清明祭(お墓参り)、アブシバレー、学事奨励会、海神祭

ジューシー

切り昆布・ツナ缶・豚肉だけのシンプルなジューシー。海神祭・告別式の際に供される。区民は「他の区とは違い、ゴロッと入った豚肉が川田ジューシーの旨いポイント」と誇らしげに語る。

ストーリー02

沖縄本島都市部の暮らしを支える県内最大のダムがある。
そして、なぜだか東村で飲む水はとてもおいしい。

県内最大となる福地ダムは、県民にとって重要な水がめ。

その堤体は国内最大級のロックフィル式*。

上流下流の両方に洪水吐があるのも珍しい。

下流側の洪水吐は放水がとにかくダイナミック。

上流側の洪水吐のすぐ向こうが海なのは不思議すぎる。

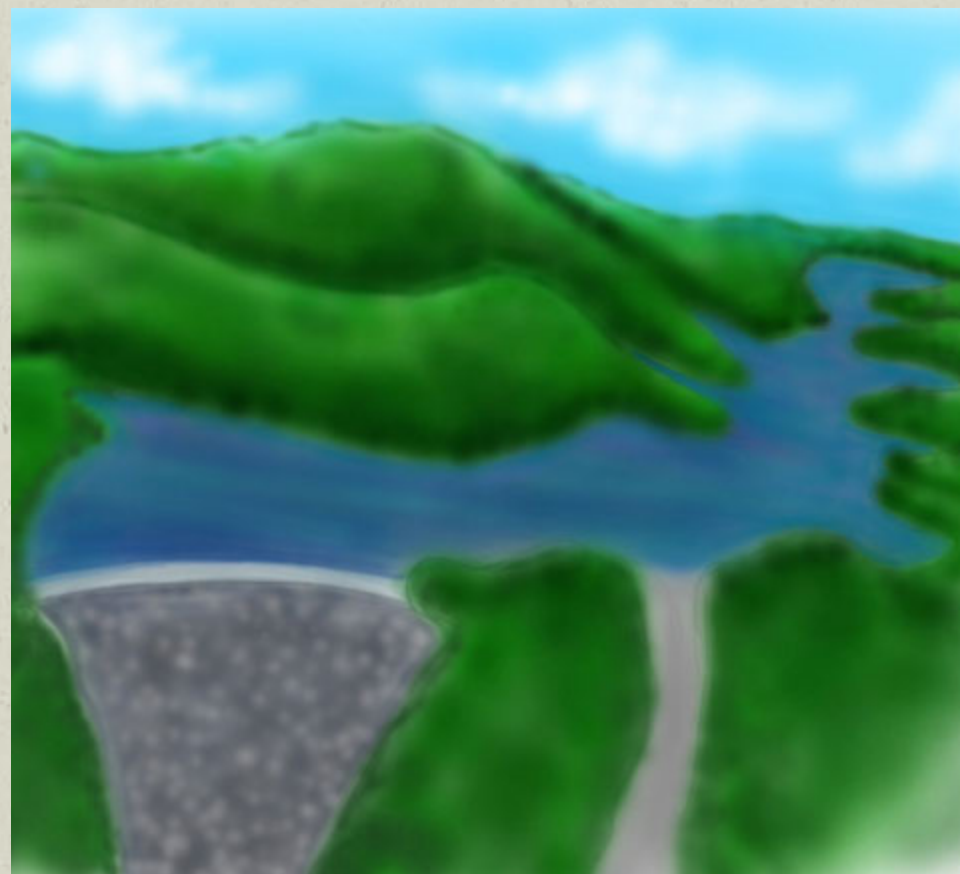
福地ダムを水源とした東村の水道水は、

川田浄水場を経て6字全域に送水されている。

その水のおいしさは村外に住む人が東村にある実家までわざわざ汲みにくるほど。

ダムや水を通してやんばるの自然により深く触れることができることも東村の魅力。

「ゴンミキ号」やカヤックでダム湖周辺の世界自然遺産エリアを探検し、豊かな自然の息づかいを体感してほしい。



*ロックフィル式：岩を積み上げて作るタイプのダム

福地ダムの観光利用



秘境ツアー

ダム湖の先に広がる、ガイド同行でしか立ち入ることのできない世界自然遺産のコアエリアを、貸切りで堪能するスペシャルなツアー。シャワークライミングコース(5~10月)と森トレッキングコース(10~5月)がある。

カヤック体験

ダム湖でカヤック体験ができる場所は、日本全国でも珍しい。ガイドが同行するため、初心者でも安心して楽しむことができる。また、福地ダム管理事務所が噴水を上げて迎えてくれるという粋な演出も楽しめる。
※個人の利用は、管理者へお問い合わせ下さい。

自然観察船「ゴンミキ号」

やんばる世界自然遺産の自然を、船上から間近に感じながら進むクルージングツアー。奇跡の森やんばるが織りなす亜熱帯照葉樹林ウォッチングを楽しめます。

ストーリー03

東村の暮らしは野山の恵みとともにある。
それは時代が移り変わっても
変わることがない。

やんばるの森の木々は、琉球の時代から首里王府の貴重な資源として大切に利用されてきた。

例えば首里城をはじめとした県中南部の建物の建築資材として、あるいは暮らしに必要な薪(タムン)や木炭として。

そして戦後復興期には焼け野原となった沖縄の復興を支える役割を担った。やがて東村の山仕事の時代は、日本の高度経済成長期の「燃料革命」とともに終わりを迎え、パインアップルが新たな産業となった。

それとともに森は回復し、豊かな自然を利用した観光産業の時代が到来した。東村を含むやんばる地域は、2016年(平成28年)に「やんばる国立公園」に指定され、2021年(令和3年)には、世界自然遺産として登録された。



山仕事 (山稼ぎ)のこと



人や牛馬で繋いできた道の跡

やんばるの森は原生林のイメージが強いが、実際には琉球王国時代から利用されてきた二次林である。建築材や薪炭材はこの森に依存し、首里城の建材の多くもやんばるの木々が用いられたとされる。

木材は人や牛馬で山から運び出され、山中には今も馬道やソリ道の跡が残る。タムンザー(集積所)で集積・加工され、やんばる船(帆掛船)で都市部へ運ばれた。戦後はトラック輸送も行われるようになった。

森は折りの対象であると同時に国の重要資源でもあり、一定の管理や規制のもとで利用されてきた。そんな歴史の積み重ねにより、今日まで豊かな自然が残ってきた。

林業から ポコットパイナップル



日本一の村、そしてパイナップル3.0

1950年代から林業から農業への産業転換が進み、パイナップル生産が新たな基幹産業となった。1970年代以降は量から質へと戦略を転換し、「パイナップルの王様」ゴールドバレルをはじめ新品種が次々と誕生した。

パイナップル愛あふれる村民のパイナップルへのこだわりは本気そのもの。「やっぱり昔ながらの酸味があるN種が一番!」「いやいや、ゴールドバレルの甘さは天下一品でしょ!」「ポコットの旨みの凝縮感、あれは別格!」と、「推しパイナップル」を語り出したら止まらない。

現在は観光や体験、循環型農業と結びつく「パイナップル3.0」へと進化しつつある。森を伐り出す時代から、畑を拓き、そしてブランドを育てる時代へ。東村の産業は、自然とともに形を変えながら、今も進化を続けている。

エコツーリズムの メッカ「東村」



自然を守る仕事の地域モデル

東村のエコツーリズムは2000年代初頭、地域の若者たちの新たな雇用創出を目的に官民協働で始まった。慶佐次湾のマングローブ林を活用した自然体験は修学旅行生を中心に広がり、現在では年間5万人を超える来訪者が訪れる。

いまでは30名近くに増加したマングローブカヤック体験ガイドの半数近くが東村出身者だ。移住してきたガイドたちも含め、やんばるの自然を深く愛し、活用している。

福地ダムの秘境ツアーや保全体験型ナイトツアーなど、自然と学びを結ぶ独自のプログラムへと展開している東村のエコツーリズムは、日本エコツーリズム大賞に4度選ばれた実績を誇る。東村は、自然を守りながら仕事を生み出すモデル地域として進化を続けている。

ストーリー04

暮らしのそばに自然がある。

気がつくときと養われている自然を大切に思う気持ち。

庭の木にはノグチゲラがやってくる。

家の近くには、ヤンバルクイナが三羽は暮らしている。

畑ではズアカアオバトの不思議な鳴き声が森の奥から聞こえてくる。

沼や川には、オオウナギやテナガエビがいる。昔からのご馳走だ。

森からあふれてくるイタジイの香りには春を感じる。

梅雨の季節にはイジュの花が咲き、甘い香りがあたりに漂う。



南風でリュウキュウアカショウビンが、北風とともにサシバが渡ってくる。

ヒルギ林では、カニたちがハサミを振り、ミナミトビハゼが跳ね回る。

「ケーン、ケーン」とオオシマゼミが鳴き始めると夏の終わりをを感じる。

夜、ふと空を見上げれば、夏には天の川、冬にはオリオン座。

サキシマスオウノキに蛍が舞い、手を入れた海で夜光虫が静かに光る。

もう、これ以上の明かりはいらないと思った。

自然の中で遊ぶこと

昔から高江では、海よりも川が子どもたちのいちばんの遊び場だった。昔の子どもたちは、新川川のクムイ（川の淵）でよく遊んだ。クムイにセンチ玉（ビー玉）を落とし、潜って取る競争をしたり、みかんを川に流して拾ったりして楽しんだ。今の子どもたちも、クムイで泳いだり、川沿いの大きな木からロープを垂らしてターザンごっこをしたり、シーソー遊びをしたりしている。タナガー獲りは昔も今も、みんな夢中だ。

慶佐次川では、月明かりの下で川沿いを歩き、エビを捕まえた。タナガーや小さなヌマエビなど、いろいろなエビがいた。収穫後に切り倒したバナナの木を川に浮かべ、いかだのようにまたがって川の流りに身を任せ、流されるのを楽しんで遊んだ。平良の小さな川にもマングローブがあり、そこでガサミを獲ったり、釣りをしたりして遊んだ。



つつじ（ケラマツツジ）

毎年「東村つつじ祭り」を開催



東村は、かつてケラマツツジの自生地として知られ、3月の満開時には、福地川や新川川沿いの斜面が真っ赤に燃えているかのような光景だった。1963年に「村花」に制定されたが、その後の減少を受け、1976年から約6年をかけて、村民総出でおよそ5万本のつつじを「村民の森つつじ園」へ移植した。その後毎年3月にはつつじ園を会場に「東村つつじ祭り」が開催され、村民が一体となってつつじの手入れと保全を続けている。

ノグチゲラ



沖縄固有種で特別天然記念物

1887年に沖縄島北部（やんばる）で発見されたキツツキの一種。沖縄島固有種で、現在はやんばる地域のみ分布する。沖縄県の県鳥でもあり、国の特別天然記念物として厳重な保護対象となっている。東村では「東村ノグチゲラ保護条例」に基づき、生息地の一部を保護区に指定し、保全活動が行われている。

慶佐次湾のヒルギ



沖縄島で最大規模のヒルギ林

満潮時には海水に満たされるマングローブを構成するヒルギの仲間たち。慶佐次湾のマングローブはヤエヤマヒルギ、オヒルギ、メヒルギの3種が自生し、約10ヘクタールと沖縄島で最大規模を誇る。ヤエヤマヒルギの分布北限地であり、1959年に琉球政府指定天然記念物に指定され、現在は国の天然記念物である。「東村ふれあいヒルギ公園」は観光案内所を備え、マングローブカヤックや遊歩道での自然観察などの体験プログラムの起点となっている。

東小学校では学校帰りに、学校前の浜から海沿いを川田から平良まで歩いて帰った。満潮と重なった日は海を泳ぎながら帰り、濡れないようにランドセルを頭へのせた。男の子も女の子も同じだった。有銘小学校でも、慶佐次の子どもたちは同じように海沿いを歩いて帰っていた。場所によっては、岩をロッククライミングのようによじ登ることもあった。

昔は下校の時間も放課後も、子どもたちにとっては冒険の連続だった。いまは部活や習い事で忙しい子どもも多いけれど、土日や夏休みには子どもたちが海や川で遊ぶ姿が今もみられる。

ストーリー05

暮らしやすさが私たちの宝物。
東村そのものが生きるという
ことを教えてくれる。

東村は、陽が昇る「アガリティーダ」の村。

元旦には、初日の出を見に、多くのウチナンチュが訪れる村。

水平線から昇る朝日とともに一日が始まり、時間はゆっくりと流れ、

美しく山に落ちる夕日とともに一日は終わる。

コンビニはないが、みんなの憩いの場所「共同売店」がある。

生きるための知恵「じんぶん」はたっぷりある。

足りないものはおたがいに補い合い、

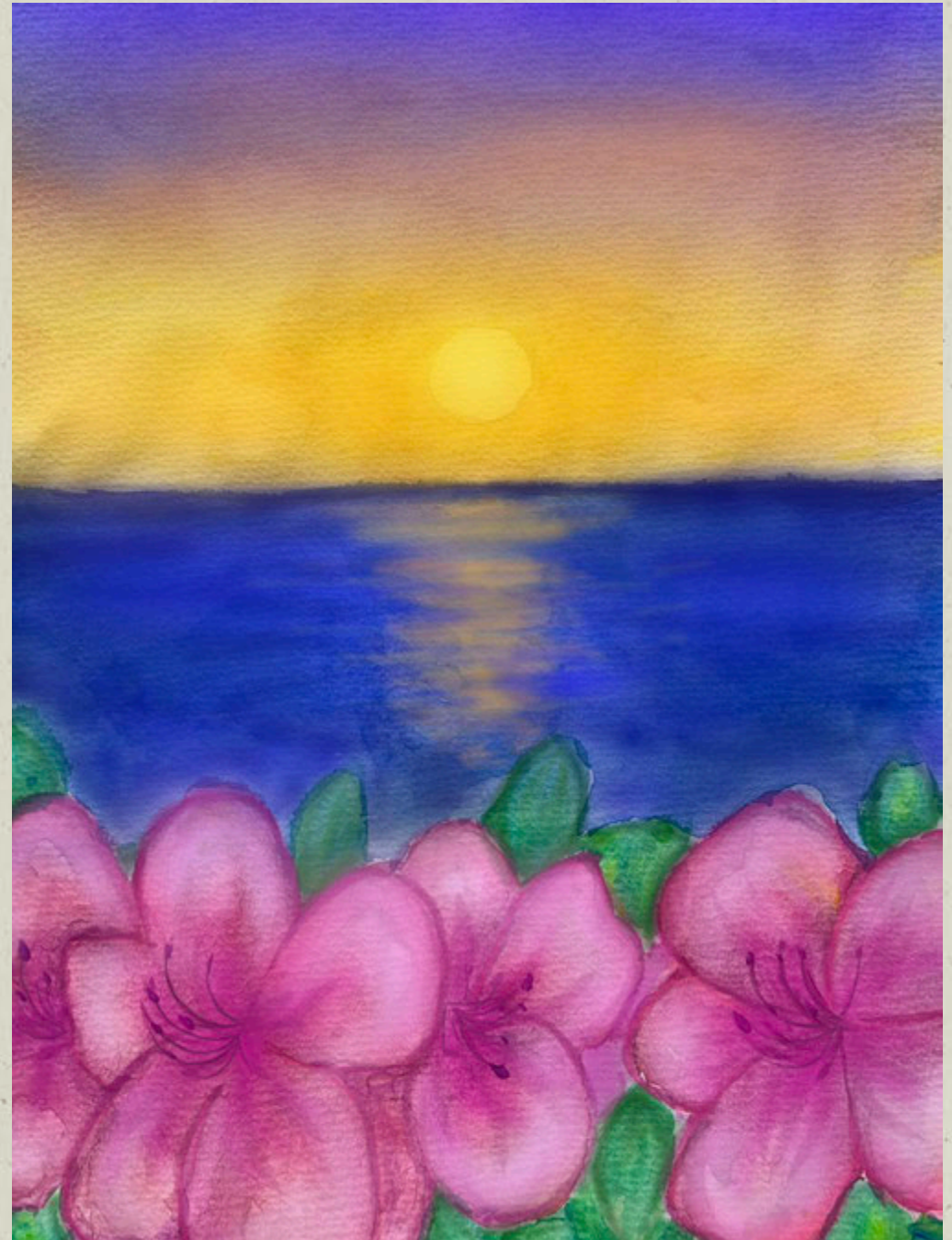
なければ必要なものは自分たちで作る。

「じんぶん」があれば、心豊かに暮らすことができる。

水がおいしい。空気がおいしい。そんなことが一番の幸せ。

東村を好きな人がここに暮らし、この村に住んでいる人こそが、

東村の魅力であり、財産である。



東村の自然と暮らしをつなぐキーワード



キーストーン種とは

キーストーン種とは、その種がいなくなることで、生態系全体のバランスが大きく崩れてしまう、“特別な重要な役割”を担う生きもののこと。もし、要石(キーストーン)であるノグチゲラがいなくなれば、その穴を利用して鳥やコウモリ、昆虫、さらにはキノコや微生物にも影響が及ぶ。ノグチゲラは、やんばるの森全体のバランスを守っている種の一つ。

棲み込み連鎖とキーストーン種

やんばるの森では、生き物たちが作った“すみか”が、次の生き物へと受けつがれている。ノグチゲラが子育てのためにあけた木の穴は、やがてリュウキュウコノハズクやヤンバルホオヒゲコウモリ、リュウキュウアカショウビンなどのすみかとなる。さらに時間がたつと、朽ちた木を利用するキノコや微生物などの世界へと姿を変えていく。

このようなすみかのバトンは「棲み込み連鎖」と呼ばれている(西平守孝 1992「生物による生息場所の創出と多種共存」)。やんばるの森は、このすみかのリレーによって、たくさんの生きものが共に生きる豊かな自然を育てている。

棲み込み連鎖で新たな環境を「創出」するノグチゲラは、この命のリレーをつなぐ最も重要な存在、「キーストーン種」だ。

東村は移住・定住を積極的に受け入れており、「暮らしやすい」という声も多い村。移住者が東村に「棲み込み」、その人たちが自分の活動を通して新たな魅力を生み出していく。この「棲み込み」と「魅力の形成」がくり返されることで、東村には多様な人たちが共に暮らす仕組みが育まれていく。

そもそも東村は、古くから多様な移住者たちによって形づくられてきた村である。川田は琉球国時代の北山の系譜につらなる人々によって、有銘は首里王府からの移住者を祖先として、そして高江は、多くの寄留民が定住することで独自の地域社会を築いてきた。外から移り住んできた人々が歴史をつくり、現在の東村がある。これからも、ルーツに関わらず、東村に住む一人ひとりが“キーストーン”となり、新たな東村の物語を紡いでいくことだろう。自然も人の暮らしも、変化しないものはない。

東村でこんなことを
体験してほしい！

13のこと



01

慶佐次川でカヤック体験をする

マングローブの生態系を楽しみながら学び、自然の中でゆったり過ごす時間を味わってほしい

02

福地ダムで観察船に乗ったりカヤック&トレッキングをする

ダムを利用したアクティビティで、水の大切さとともに普段は近づけない山深い森の自然に触れてほしい

03

「東村立山と水の生活博物館」に行ってみる

山仕事が主な生業だったころの歴史や森の動植物のことを知ってほしい

04

「東村村民の森つつじエコパーク」に行ってみる

村民みんなで植えたつつじを見てほしい バンガローやキャンプで泊って星空を眺めてほしい



05

ウッパマビーチで朝日を見る

水平線から太陽がゆっくり昇る時間を楽しんでほしい

06

元旦に初日の出を拝む

村外からもたくさん来てほしい たくさんの人で拝みたい

07

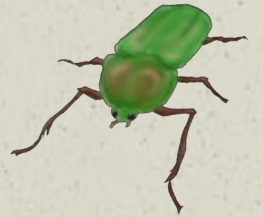
山に沈む夕日を眺める

オレンジ色に染まる山を眺めながら、一日の出来事を振り返ってほしい

08

福地川海浜公園でキャンプする

波の音を聴きながら夜の静かな時間を楽しんでほしい



09

季節の鳥や虫の声を聞く

聞き流しがちな生き物の声に耳を澄ませ、季節の変化を感じてほしい

10

慶佐次川でじっとたたずむ

しばらくすると現れるミナミトビハゼやシオマネキを観察してほしい

11

満天の星を観察する

真っ暗な夜空に輝く星々を観察しながら、オリジナルの星座を作ってみてほしい

12

パイナップルを食べに何度も訪れる

時期ごとの様々な品種があるので、食べ比べて味わってほしい



13

共同売店に行ってみる

共同売店で買い物をしながら、売店主や村民とユンタクしてほしい

東村インタープリテーションのキーワード集

○東村の6つの^{あざ}字の特徴

キーワード 01

高江

たかえ

東村最北の集落。村内でも特に自然度が高く、ノグチゲラやヤンバルクイナ、ケナガネズミなどの希少種の生息密度が高い地域である。また、紅型や藍染、木工、焼き物などの手工芸作家が集う文化的な側面も持つ。一方で、アメリカ軍北部訓練場やヘリパッドを抱え、沖縄特有の基地問題とも向き合っている。

キーワード 02

宮城

みやぎ

東村内でもパインアップルの生産が盛んな集落。特に玉城忠男さんが手がけるゴールドバレルは「タダオゴールド」として知られ、ブランドパインとして全国的な人気を誇る。近年は若手の新規就農者も増え、次世代リーダーたちが新たな農業のかたちに挑戦している、いま最も勢いのあるパインの里である。

キーワード 03

川田

かわた

東村発祥の地とされる集落。福地ダムや山と水の生活博物館、福地川海浜公園などの観光拠点施設が集まる。川田共同売店は、現在では村内随一の品揃えを誇る貴重な買い物スポットとなっている。また、川田漁港では、時折水揚げされた海産物の直売会がウミンチュ(漁師)たちによって開かれ、新鮮なイマイユ(新鮮な魚)の刺身などを味わうことができる。

キーワード 04

平良

たいら

東村役場、公立図書館、郵便局、JAバンク、道の駅「サンライズひがし」などが集まり、行政・経済の中心を担う集落。村内で最も人口が多い。東村立保育所では、0歳児から5歳児までの子どもたちの賑やかな声が響いている。また、村民の森「つつじ園」や「つつじエコパーク」があり、特に3月のつつじの季節には多くの来訪者でにぎわう。

キーワード 05

慶佐次

げさし

景観の美しい「ウップマビーチ」や、国の天然記念物「慶佐次湾のヒルギ林」を有する。マングローブカヤック体験を目的に、一年を通して来訪者が絶えない集落である。食堂「あいうえお」は村民にも観光客にも親しまれている人気店。特に釣り好きのマスターに釣果があった翌日には、イマイユ(新鮮な魚)の刺身やマース煮など、その日ならではの魚料理が楽しめる。人間国宝・島袋正雄氏の出生地。

キーワード 06

有銘

あるめ

東村最南端の集落。山あい位置し、夜にはホテルや満天の星が楽しめる。かつては棚田が広がっており、現在もその跡が残る。オガタマノキ(東村の天然記念物)は、地域の人々に神聖な木として大切に守られている。また、130年以上受け継がれてきた伝統行事「有銘大綱引き」は、集落の繁栄を願い3年に一度開催されている。食事処「森のふくろう」はカラオケも備えた、村民の夜の憩いの場である。

東村インタープリテーションのキーワード集

○東村の年中行事(旧暦) 沖縄では、多くの年中行事が旧暦に基づいて営まれてきました。これは、農業や漁業など、自然とともに営む暮らしと深く結びついているためです。

1月

○1月1日【トッシー(生年祝い)】

長寿祈願の行事:干支を迎える人が公民館に集まり記念撮影などを行う

○1月2日【ハチウツシー(初越し)】

仕事始めを意味し、1年間の豊作や家内安全などを各字の拝所などで祈願する

○1月16日【16日祭(ジュールクニチー)】

グソー(あの世)の正月。祖先や個人のための正月。墓などに供え物などをして祖先供養をする。

2月

○旧暦の彼岸時期【ヤシキウガミ(屋敷の拝み)】

ヒヌカン(火の神・台所)→生活の中心である火の神に挨拶・感謝

・仏壇(祖霊・トートーメー)→ユンシヌカミ(屋敷の四隅の神)

・ジョウヌカミ(門の神)→フルヌカミ(トイレの神)

・ナカジンヌカミ(中庭/屋敷中心の神)

これらを順に拝むことで、家全体の結界を張り、家族の無事を祈る。同時に春の彼岸の祖先供養も執り行われる場合が多い。



3月

○3月3日【ハマウリ(女の浜遊び)】

女性が海で心身を清める日とされている。大潮にあたることが多いため、潮干狩りが行われることも多い。特に高江で字の行事として行われている。

○3月中旬頃(新暦4月第2週の土日)【シーミー(晴明祭)】

親族一同が墓前に集い、祖先に感謝を捧げながら、この一年の出来事を報告する行事。墓前では重箱料理を広げ、ご馳走を囲みながら、歌三線で賑やかに過ごす。字をまたいで親戚関係があるため、地域ごとに日程をずらして執り行われる。

4月

○4月吉日【ワカサウイミ(若草御願)】

若草の生命力にあやかるために、畑や山の神に一年の健康などを祈願する。各家庭ごとに執り行われる。

○4月14日~15日頃【アブシバレー(畦払い)】

伝統的な農耕行事で、田畑の害虫を払い、豊作を祈願する日。草舟に虫などを乗せ海に流す。学事奨励会と一緒に行われる。

○学事奨励会・【学事奨励会】

幼稚園生から大学生までの子供達に図書券や奨励金を贈呈し、グラウンド・ゴルフなどを通して交流する会。地域全体で子供達の勉強や成長を見守り、励ますことを目的としている。

5月

○5月中旬頃【ウマチー】

伝統的な農耕儀礼の一つ。田畑の生育状況を神に報告し、今後の豊作や無事な生育を祈願するため、御嶽や拝所で祈りを捧げる行事。



6月

○6月25日前後【大綱引き】

有銘では3年に一度執り行われ、東西に分かれて勝負を行い吉凶を占う。区民総出で稲藁で綱を編む。以前は綱引き後に琉球角力が行われていた。川田では、共同売店前で子供達を中心に運動会用の綱で綱引きが行われている。

○6月26日【海神祭】(川田・平良)

青年会を中心とした若者たちが祭事として「ウガンバーリー」で「ウフアガリジマ」から神を招き豊作や豊漁を祈願する。ウガンバーリー後に区民の交流行事としてハーリー競漕が行われる。婦人会が中心に作るジュシーも楽しみのひとつである。

東村インタープリテーションのキーワード集

○東村の年中行事(旧暦)

7月



○ナカビ(中日)

親戚回りをしたり、仏壇に手を合わせて静かに過ごすことが多い。

○ウークイ(お送り)

ご先祖をグソー(あの世)へお見送りする日。夜、家族や親族が本家に集まり、ウチカビ(グソーのお金)を燃やして、ご先祖がグソーで不自由しないよう仕送りをする。

○エイサー

旧盆の最終日ウークイにご先祖様をグソーに送り出す踊り。各字ごとに特徴があり雄大で荘厳。三線と太鼓の音に子供から年寄りまでチムドンドンする。

8月※

○8月吉日【トーカチ(十日祝い)】

数え年90歳を祝う長寿祝い。生まれ年の干支が巡る、十回目の節目に「人生に勝った(十勝ち)」という意味をもつ。

○8月15日【ジュウゴヤァー(十五夜)】

蒸した餅に小豆をまぶしたフチャギ(吹上餅)を仏壇や拝所に供え、豊作や厄除けを祈願する。

○8月中旬頃【ハチグッチヒガン(8月彼岸)】

仏壇や墓に供物を供え祖先を供養する日。大がかりではなく、各家庭で静かに執り行われる。

10月

○冬作の種まきが始まる頃【タントゥイ(種まき)】

作物の種をまく時期に行う農作業、またはそれに伴う祈願行事。一年の実りを決める最初の大切な一歩である。



11月

○ジャガイモの植え付け前【ウムヌウガン(イモの豊作祈願)】

ジャガイモの豊作を祈願する行事。沖縄では一般的にサツマイモが主流だが、なぜか東村ではジャガイモの豊作を祈願する。現在でも植え付けの時期に合わせ、各字で必要な種芋の量を家庭ごとに取りまとめ、農協へ注文している。

○11月吉日【キリシタ】

赤ちゃんの誕生を祝う行事で、「キリ」は節目、「シタ」は迎えることを意味し、「節目を迎えた」という意味を持つ。沖縄の他地域では、亡くなった人の忌明けを行う法要や儀礼を指す場合もあり、生と死という対照的な節目を表す行事といえる。

※ 8月10日【豊年祭】(有銘では豊年踊り)

五穀豊稔と子孫繁栄を祈願し、農作業の労をねぎらう伝統行事。三年に一度、各字の公民館を中心に盛大に執り行われ、琉球舞踊などの奉納芸能が披露される。

- ・有銘▶(踊り)女手踊り・鶴亀 (組踊)奇縁の巻・矢蔵之比屋
- ・慶佐次▶長者の大王・女踊り「かしかけ」
- ・宮城▶3年に一度開催
- ・平良▶(口上)長者の大王 (踊り)五福の舞・戻り籠・浜千鳥
- ・川田▶獅子舞・国頭サバクイ
- ・高江▶創作劇



9月

○9月7日【カジマヤー(風車祝い)】

数え年97歳(満95歳)を祝う沖縄の長寿祝い。風車を手にすることが、童心に還り、人生の新たな一歩(第二の人生)を迎える象徴とされている。また民間伝承では、100歳になるとグソーから迎えが来るとされ、その際に風車を持って子どものように振る舞うことで、迎えを追い返すという言い伝えも残されている。

12月

12月8日【ウニムーチー・ムーチー】

子どもの厄払いと健康を願う行事。月桃(サンニン)の葉で餅を包み、蒸して食べる。月桃特有の甘い香りが特徴である。やんばるでは、月桃の近縁種で香りがやや控えめな「クマタケラン」を用いたものが好まれる。「ラン」と名がつくが、ショウガ科の植物である。子どもが生まれて初めて迎えるムーチーの日は「ハチムーチー」と呼ばれ、特に盛大に祝われる。



東村インタープリテーションのキーワード集

○暮らしと文化のキーワード

あざ
各字にある拝所
(ウガンジュ)

里の神、山の神、海の神、川の神など、さまざまな神々が祀られている、^{あざ}字の人々が古くから大切に守り続けてきた神聖な場所。豊年祭をはじめとする行事の際には、区長をはじめ、時にはカミンチュ(神人)も訪れ、祈りが捧げられる。

あざ
各字の
アシャギ

神様を迎え、祈りや祭りを行うための場所(拝所)で、豊年祭などの際には踊りが奉納される。屋根と柱だけのシンプルな東屋のような造りが多く、各字に設けられている。

村陸上などの
字対抗の
スポーツ大会

バスケットボールやバレーボール、野球、ボウリング、陸上競技で、^{あざ}6字がプライドをかけて年間を通して戦い抜く。仲間の想いを背負い、汗と声援がぶつかり合う熱戦は、今年もまた限界まで燃え上がる。

共同売店

地域の人たちが力を合わせて営むお店。日用品や食料を買うだけでなく、自然と人が集まり、情報や会話が行き交う“村の交流拠点”でもある。いまでは東村でも高江・川田・慶佐次の3か所に残るのみとなっている。



パイン
アップル

東村といえばやっぱりパインアップル。夏になると、気づけばパインアップルに囲まれる暮らし。ちなみに東村では「パイナップル」じゃなくて「パインアップル」と品目名で書くのがこだわり。サンライズ東ではスムージーを年中楽しめる。

カボチャ

東村の冬の特産品。沖縄県の拠点産地にも指定されており、東村産を使ったカフェ帆風のかぼちゃプリンが濃厚で絶品。



東村インタープリテーションのキーワード集

○暮らしと文化のキーワード

コーヒー

沖縄はコーヒー栽培の北限地。東村のヒロコーヒーファームは先駆的な存在で、根強いファンに支持されている。大規模にコーヒー栽培を行う又吉コーヒー園は「農業×観光」という新たな形に挑戦している。

オリンピック
吉本久也

東村から世界に羽ばたいた重量挙げのオリンピック選手。アトランタ五輪とシドニー五輪の2大会に連続出場。現在では後進の育成に励んでいる。

海ぶどう

観光客に「沖縄で何を食べましたか？」と尋ねると、必ずといっていいほど上位に挙がる人気のウチナー食材。慶佐次漁港で養殖されている。なお、低温で海ぶどうのツブツブがつぶれてしまうので、絶対に冷蔵庫で保存してはいけない！

人間国宝
島袋正雄
(1922~2007)

琉球古典音楽における三線演奏の第一人者であり、野村流の師範としてその技芸を極めた。慶佐次出身。

イマイユ

沖縄方言で鮮魚のこと。地元のウミンチュ（漁師）が獲ってきた近海魚は刺身で食べるのが一番美味！



宮里三兄弟

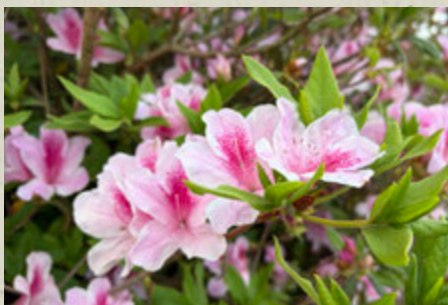
東村出身のプロゴルファー。長男の聖志、次男の優作、そして末っ子長女の藍。特に藍ちゃんが世界ランク1位にもなり有名だが、3人とも村の誇りであり、夢の象徴。藍ちゃんは現役を引退した今でも、村のアイドル。



引用) 東村文化・スポーツ記念館HPより

東村インタープリテーションのキーワード集

○自然のキーワード



つつじ(ケラマツツジ)

東村の村花。3月には「村民の森つつじ園」で「東村つつじ祭り」が開催され、東村を代表する行事のひとつ。



ヒルギ(マングローブ)

東村の村木。慶佐次湾のヒルギ林は国の天然記念物・国立公園に指定され、マングローブカヤック体験で人気の場所。



シオマネキとミナミトビハゼ、コメツキガニ

マングローブを代表する生き物たち。ミナミトビハゼはトビハゼ類のこと。干潮時に東村ふれあいヒルギ公園を訪れると出会うことができる。



タナガー(テナガエビ)

清流に棲むタナガーは、昔からやんばるの人々の身近な食糧。素揚げにするのが一番美味しい。



オオウナギ

最大2m以上にもなる大きなウナギの仲間。鰻井として食べるニホンウナギとは違う種類。味噌煮にして食べる。タナガーの天敵。



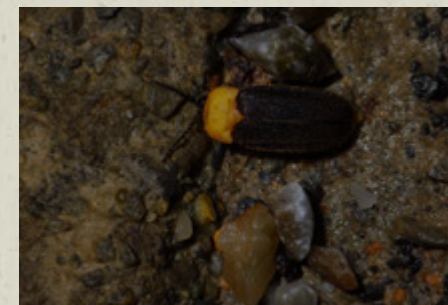
サキシマスオウノキ

東村指定の天然記念物。福地川付近に生育し、樹齢は200年以上とされる。大きく張り出す板根が特徴で、種子はウルトラマンの顔に似ている。



オガタマノキ

東村指定の天然記念物。有銘の小学校裏に生えている巨木。神聖な木として、字の人々に大切に守られてきた。

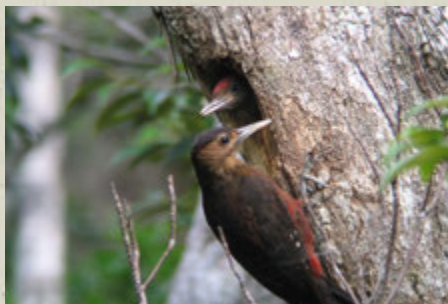


ホタル

オキナワスジボタル、クロイワボタル。村民でも生息場所はあまり知らない。夜には星空とともに幻想的な光を楽しめる。

東村インタープリテーションのキーワード集

○自然のキーワード



ノグチゲラ

(東村ノグチゲラ保護条例)

東村の村鳥。「東村ノグチゲラ保護条例」で村内の生息域を保護している。木を突いて求愛やナワバリを主張するドラミングの音が村内の山間では響き渡る。



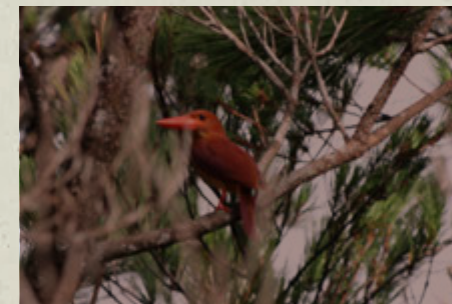
ヤンバルクイナ

やんばるを代表する鳥。日本で唯一飛べない鳥。飛べない代わりに足の筋力が発達して時速40kmで走る。夜寝る時には、ハブに襲われないように木に登る。



ハブ/ヒメハブ(クファー)/アカマタなどのヘビ類

沖縄県民の多くが恐れる生き物。しかし、その生態を理解すれば必要以上に恐れる必要はない。ノグチゲラやヤンバルクイナと同じ沖縄・やんばるの生態系を構成する大切な仲間である。



リュウキュウアカショウビン

初夏の頃になると東南アジアの方から渡ってくる夏鳥。カワセミの仲間の全身が朱色の綺麗な鳥。やんばるの人々はキュロローという独特な鳴き声が聞こえると梅雨の訪れを感じる。



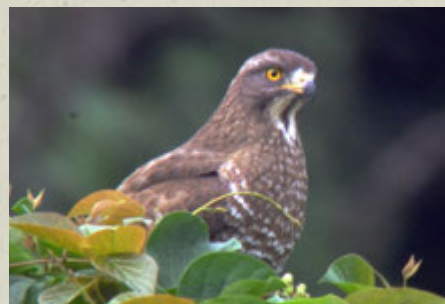
リュウキュウツバメ

本州のツバメと違い渡りをしないため、一年を通して見ることができる。尾羽が短く、いわゆる「燕尾服」のような形ではない。



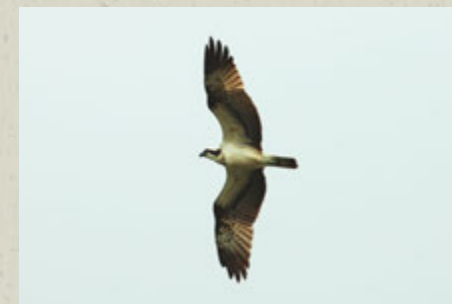
カニやヤドカリの大移動

夏の満月の夜には、ミナミオカガニやベンケイガニ類、そして天然記念物のオカヤドカリ類が、繁殖のために森から海へ大移動する光景が見られる。ロードキルに注意が必要!!



サシバ

秋になると北の方から渡ってくるタカ的一种。ピクィーという鳴き声が聞こえると、秋の訪れを感じる。たびたびカラスにいじめられていることも・・・



ミサゴ

サシバと同様に秋に渡ってくるタカの仲間。サシバよりも大型である。海や川に飛び込み、魚を捕らえて食べるのが特徴。だが狩りに失敗することも多く見られる。

東村インタープリテーションのキーワード集

○自然のキーワード



オキナワシリケンイモリ

お腹がオレンジ色でキュート。水たまりや池など、ちょっとした水辺でよく見かける。少量の毒を汗腺から出すので、素手で触った後にはしっかりと手を洗う。



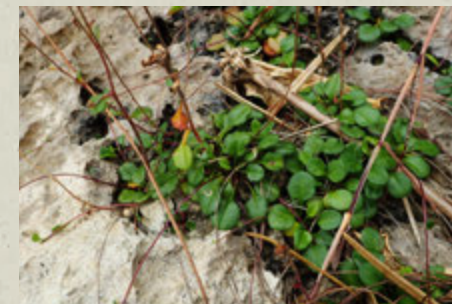
イタジイ(スダジイの地方名)

やんばるの森を代表する樹木。森を遠くから眺めると樹冠がモコモコとまるでブロッコリーのように見える。秋には小さなどんぐりをつけ、やんばるの生き物にとって大切な食べ物となっている。



イジュ

梅雨の頃になると、白く甘い香りの花を咲かせる。木は硬くシロアリにも強いので、建材として利用されてきた。樹皮には魚をしびれさせる性質があり、かつては漁に使われることもあった。



オキナワギク

沖縄を代表する野菊のひとつ。晩秋から冬にかけて、小さな白い花を咲かせる。海岸の岩場や崖などの厳しい環境に生える、たくましい植物。近年は数の減少が懸念されている。



ウップマビーチ

白い砂浜が数百メートル以上続く開放感のある自然海岸で、東村有数の絶景ポイント。駐車場やトイレ、シャワーが整備されている。ウミガメが産卵に訪れるため、ポイ捨てや直火での焚き火には注意が必要。



10種類のカエルたち

オキナワイシカワガエルをはじめ、日本の在来カエル約40種のうちやんばるには10種類も生息しており、やんばるの高い生物多様性を物語っている。



東村インタープリテーションのキーワード集

○自然環境の保全と利用のキーワード

やんばる国立公園／

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産

やんばるの森はその高い生物多様性と希少動植物の生息地としての重要性が認められ、2016年には33番目の国立公園、そして2021年には日本で5番目の世界自然遺産に登録された。

エコツーリズム先進地域(日本エコツーリズム大賞の村)

東村は、西表島(1996年)に次いで、日本で2番目にエコツーリズムの取り組みが始まった先進地の一つ(1999年)。慶佐次川でのマングローブカヤックをはじめ、福地ダムのダム湖を活用したさまざまなエコツアーや、夜の生き物を観察するナイトツアーなどが盛んな地域である。これまでに4回、日本エコツーリズム大賞を受賞しており、名実ともにエコツーリズムの村といえる。

ネコとイヌの適正飼育・管理条例

現在、日本では犬や猫について、販売業者に対して販売時のマイクロチップ装着が義務化されている(2022年)。一方、やんばる3村ではそれに先立つ2004年に、飼い猫の登録とマイクロチップ装着を求める内容が条例で定められた。これは、野生化したノネコによるヤンバルクイナをはじめとする希少種への影響を抑えるためである。犬についても、登録に加え、適正な飼育管理を行う飼い主の責任が条例等で求められている。

SFライン／STラインのマングース北上防止柵と捕獲トラップ

福地ダム(福上湖)から大宜味村塩屋方面へ延びるSFライン(塩屋-福地ライン)、東村平良から塩屋方面へ延びるSTライン(塩屋-平良ライン)に沿って、マングースがやんばるのコアエリアへ侵入するのを防ぐ目的で北上防止柵が設置されている。

また、防除のためのトラップも多数設置されており、トラップの設置・回収を行うマングースバスターズと、相棒であるマングース探索犬の継続的な活動により、やんばる地域ではマングースの個体数が着実に減少してきている。その効果もあり、現在はSFライン以北でヤンバルクイナをはじめとする希少種の回復傾向が報告されている。

慶佐次レンジャー

NPO法人東村観光推進協議会のエコツーリズム部会の会員(エコツアーガイド)を中心に結成された、環境省公認の任意団体。慶佐次川のヒルギ林保護と河川環境の保全を目的に、外来植物の防除や水質モニタリングなどを行っている。

マングース(フィリマングース)

1910年に、ハブやネズミの駆除を目的として導入された。南部に放された17匹が増え、現在では沖縄本島全域に1万匹以上が生息しているともいわれている。しかし実際にはハブの駆除にはほとんど効果がなく、増えた個体がヤンバルクイナをはじめ沖縄のさまざまな生き物を捕食し、個体数減少の主要因の一つとなっている。

また、かつては観光施設で「ハブとマングースの決闘ショー」が人気のコンテンツとして行われていたが、動物愛護法の制定以降は見られなくなった。

林道パトロール

2011年から、地域住民の有志が環境省やんばる自然保護官事務所や生物の専門家の協力を得ながら行っている、希少種の密猟・盗掘の防止を目的とした活動。主に、やんばる国立公園内の林道や里道などを車で巡回し、違法なトラップの確認や、不適切な生き物の採取に対する注意喚起などを行っている。

外来植物対策

特定外来生物のツルヒヨドリをはじめ、アメリカハマグルマやギンネムなどの外来植物がやんばるに持ち込まれることで、在来の生態系への影響が懸念されている。外来植物は鞋底に付いた泥や種でも持ち込まれるため、入域前後に鞋底の泥を落とすことが大切である。外来植物の防除作業や見回りも、やんばるのエコツアーガイドにとって重要な活動の一つである。

あ と が き ～この冊子を作成した想い～

沖縄本島北部、「やんばる(山原)」。その名の由来とも言われる広大な森は、山頂から見下ろすと深緑の絨毯のように連なり、世界で唯一無二の動植物を育んできました。

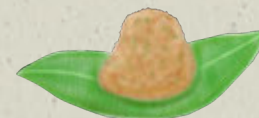
古来、人々はこの豊かな森の恵みに感謝し、自然と共に生きる術(すべ)を受け継いできました。そのやんばるの東側に位置するのが、私たちが暮らす「東村」です。沖縄本島で最も人口が少なく、コンビニエンスストアが一軒もない村。いわゆる過疎や限界集落と呼ばれる現状も、私たちのありのままの姿です。しかし、不便さの代わりに私たちが手にしているのは、「豊かな自然の中で生命(いのち)が輝く農村」という誇り高いビジョンと、地に足のついた暮らしです。

太平洋から昇る朝日の力強さと、山に沈む夕日のやさしさ。ノグチゲラをはじめとする、多様で個性豊かな生き物たち。雄大なマングローブと、清らかな川の流れ。集落ごとに守り継がれる、独自の伝統行事。夏の風物詩である、甘く漂うパイナップルの香り。そして、朗らかで少し照れ屋、芯の通った村民たち。沖縄の中でも、ひととき色濃く原風景を残すやんばる・東村。私たち村民が過ごす“あたりまえの日常”は、あわただしい現代において、かけがえのない“特別な時間”なのだと思われがちです。

この冊子では、そんな東村の“あたりまえ”だけれども、多くの人に伝えたい、そして将来に残していきたい想いを、各集落の方々からお聞きした内容をもとに、自然・暮らし・文化のストーリーとしてまとめました。

先人たちが大切に守り残してきた、この“あたりまえ”を多くの方に知っていただくことで、次の世代へとつなぐ架け橋となることを願っています。

妹尾 望(東村地域チームリーダー/NPO法人東村観光推進協議会)



東村ストーリーブック

今日もアガリティータ日和 ～あたりまえが宝物～

やんばる国立公園インタープリテーション全体計画 東村編

発行	環境省沖縄奄美自然環境事務所
協力	足立 朋子／伊佐 真次／伊藤 久未／大北 紘彰／大城 隼人／大城 拓夢／大畑 健介／奥間 政子／片桐 拓也 喜屋武 梓／喜友名 サヨ／清武功／島袋 裕也／平良 魁斗／塚脇 竹俊／渡久山 尚子／渡久山 真一／仲峰 久美子／ 仲本 妙子／藤元 京子／堀田 克二／又吉 一樹／宮本 祥之／森岡 尚子／森 貴希／山城 定和／ゆり／吉元 博／東村
東村地域チーム	妹尾 望／城間 竜太／新里 善幸／染谷 唯／當山 一／渡久山 真一／又吉 拓之 金城 尚(オブザーバー)／與古田 惟仁(オブザーバー)
写真提供	岩崎 誠／大堀 健司／名嘉 猛留／妹尾 望／山城 廉太／(一財)沖縄県環境科学センター
イラストレーター	池原 由里絵
製作	やんばる国立公園インタープリテーション全体計画編集チーム
製作協力・監修	一般社団法人 日本インタープリテーション協会

